

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり倉敷		
○保護者評価実施期間	R7年12月11日		～ R8年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	R7年12月11日		～ R8年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの状況や状態を評価し、個々に合わせた個別支援計画を立案、遂行しているところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの一人ひとりに対し、様々な職種の職員（保育士、児童指導員、作業療法士、社会福祉士）でそれぞれの持ち得ている視点から意見を出し合い、個別支援計画を立案している。</li> <li>・日々の朝礼・終礼にてお子さんの様子共有すること、今後のを行うことで統一した支援提供ができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの特性、日々の様子、ご家族の思い等、多面的に把握し、個別支援計画立案や支援につなげていきます。またお子さん本人の強みや好きなことを取り入れた支援を行っていきます。</li> <li>・チーム全体の支援の質の底上げの為アセスメント力の向上を図っていきます。その為の各種研修や勉強会を実施していきます。</li> </ul>
2	様々な活動プログラムを提供しているところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援ガイドライン、支援プログラムを基に、年齢に合わせた活動、日常動作獲得の為の活動、運動活動、社会性・コミュニケーション向上の為の活動、就学に向けた活動、季節に応じた活動等、固定化されないよう、組み合わせながら行うようにしている。</li> <li>・「やらされている」ではなく「やってみたい」と思うような働きかけを行いながら、遊びの中で楽しく取り組めるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動目標、活動時期、活動メニュー、効果等を可視化し統一性や連続性を持った活動プログラムの仕組みを作り、実践できるようにしていきます。</li> <li>・子どもたちの意向も踏まえながら活動を行っていきます。</li> </ul>
3	保護者向け勉強会を開催しているところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニング、就学、サポートブック、ビジョントレーニング等の勉強会を開催している。また法人内の他事業所が開催している勉強会（障害年金、言語聴覚士、卒業後の生活等）の情報発信や参加の働きかけも行っている。</li> </ul>	保護者の方がどんなことを知りたいか学びたいか、またどんな形態の勉強会だと参加しやすいかリサーチした上で開催していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の園との交流や、地域で他の子どもと活動する機会がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの利用児さんに所属園に通っており子ども同士の交流が可能であることから、事業所として積極的な交流を図っていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が孤立した空間にならないように、子ども達と地域の公共の場に出向いて活動を行うことや、事業所側が園に出向き関わりを多く持てるようにしていくこと、事業所の居場所提供（沖ベース）を行うことで、開かれた事業所にしていくことを目指します。</li> </ul>
2	保護者同士の交流の場が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家庭の困りごとがそれぞれ異なることや、その悩みごとをどこまで他の方に共有できるか等からどのような形態での交流が集まりやすいのか、保護者の方はどの場でのコミュニティ形成を求めているのか、悩むところがあった。</li> </ul>	保護者同士の交流の場を求めているか、またどのような交流の場だと良いか等アンケートを取り、保護者の方のニーズから反映させていきたいと思います。
3	居室の活動スペースが限られており狭さを感じる	居室のスペースが限られている為、動きの多い活動は難しい。	居室内で出来る活動を行っていくと同時に、屋外での活動を組み合わせて、活動や支援の充実を図って行きます。